

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	こども発達支援所はる（児童発達支援センター）		
○保護者評価実施期間	R7年 10月 27日 ～ R7年 11月 10日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	135	(回答者数) 125
○従業者評価実施期間	R7年 10月 27日 ～ R7年 11月 10日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	35	(回答者数) 35
○事業者向け自己評価表作成日	R7年 12月 15日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	お子さんと保護者が一緒に通所し、活動に参加できる。支援の様子を把握できる。支援の様子を把握できる。お子さんだけ通所の際は定期的にはるノートにて様子や支援内容を伝達している。	モニタリングでは、支援内容の伝達や様子について担当が詳しく説明できるよう、事前にチームで打ち合わせし用意をした上で参加するようにしている。	保護者の悩み、相談を専門職がタイムリーに対応していく。
2	専門職（各セラピスト）が在籍しており、それぞれの立場からお子さまにとってより良い支援を検討し、療育に取り入れている。	専門外のことでわからないことがあればセラピストに助言や対応を求め、子どもの支援に活かす。	すでに実施しているが、他の職員も専門性に応じて支援を行っていく。
3	週に3回、会議時間を設けることで利用児の問題点や支援の方向性をより具体的に共有できるようになった。	会議に参加できない職員も、議事録を残すことで共有できるようになっている。	話し合いで挙げた対応についてのケースワークをみんなでしたり、スキルアップのため勉強会を継続して行っていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	施設の大きさや交流会の有無、避難訓練の実施等について保護者が分からないと思うところがある。	利用児の様子等、直接支援に関係すること以外の内容について保護者へ情報共有する機会が少ない。	SNSを有効活用し、日常の活動以外も保護者へ伝わるようにしていく。
2			
3			